

生活に困窮する乳幼児を育てる世帯に対する
アンケート調査報告書

2020年7月

認定 NPO 法人フードバンク山梨



I. 調査の経緯と今後の展望

認定 NPO 法人フードバンク山梨

理事長 米山 けい子

【調査の経緯】

新型コロナウイルス感染症拡大により、リーマンショック以来の厳しい経済状況の中で、生活困窮する世帯が急増しています。

このような状況をふまえて、休校措置が取られた3月より、過去の「フードバンクこども支援プロジェクト」で支援した世帯に2回の緊急食料支援と「乳幼児応援プロジェクト」の対象世帯にミルク、オムツ、食品の支援を実施しました。フードバンク山梨が実施する食料支援事業では、コロナ禍以前と比べて支援世帯数が1.4倍にまで急増しており、3月以降定期的、緊急的な支援を含めておよそ2000件、約50トンを支援しました。

4月に実施した調査では、休校により食費の支出が増加し、休業や失業で収入が減少していることが明らかになりました。

今回の調査は乳幼児を育てる、児童扶養手当を受給している世帯で、フードバンク山梨が5月22日に行った乳幼児応援プロジェクトで支援を受けた世帯を対象としています。アンケート調査の結果から、収入が減少した世帯が増加するなど、コロナ禍において厳しい家計状況の中で暮らす乳幼児がいることが改めて明らかになりました。また記述回答からは、「通常でも家計が大変な状況なのに、コロナの影響で仕事がほぼない」「元々低所得の上にコロナで子供を自宅で見ることとなり食費が増加した」など、生活基盤が元々脆弱であった世帯の生活状況がさらに悪化していることも分かりました。

【今後の展望】

調査結果を踏まえ、生活に困窮する子育て世帯への緊急的かつ早急な支援が必要であると考えています。フードバンク山梨では、今後コロナ禍で生活に困窮する世帯（準要保護世帯、児童扶養手当受給世帯、その他自治体が必要と認めた世帯）に対して、これまで連携のあった10自治体に加えて、県内全域を対象として食料支援を実施します。



Ⅱ. 調査の概要

1. 調査の目的

今般の新型コロナウイルス問題および感染拡大防止のための休校や休業により、生活困窮世帯がどのような影響を受けたか、また現在どのようなことに困っているのかを明らかにすることを目的としている。

2. 調査について

①調査対象

乳幼児を育てる、児童扶養手当を受給している世帯で、フードバンク山梨が5月22日に行った乳幼児応援プロジェクトで支援を受けた世帯

②調査方法と回収状況

支援世帯に食品と共にアンケート票、および返信用封筒を同封し郵送。各支援世帯で回答した後、返信用封筒により返送

③調査期間

2020年5月22日～2020年6月10日

④回収状況

調査世帯数	回収数	回収率
77	54	70%



Ⅲ. 調査結果の要点

1. 世帯構成 (P7)

- ・ ひとり親世帯が 65% (母子世帯が 63%、父子世帯が 2%)、ふたり親世帯は 35%となっている。

2. 1 世帯当たり人員 (P8-9)

- ・ 全世帯における、1 世帯当たり人員の平均は、4.76 人となっている。
- ・ ふたり親世帯における、1 世帯当たり人員の平均は、6.47 人となっている。
- ・ ひとり親世帯における、1 世帯当たり人員の平均は、3.82 人となっている。

補足：平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査では、母子世帯の平均人員は 3.29 人となっている。

3. 世代 (P10-11)

- ・ 全世帯では、二世代の世帯が 67%、三世代の世帯が 33%となっている。
- ・ ふたり親世帯では、二世代の世帯が 63%、三世代の世帯が 37%となっている。
- ・ ひとり親世帯では、二世代の世帯が 69%、三世代の世帯が 31%となっている。

補足：平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査では、親と同居する母子世帯は 27.7%となっている。

4. 子どもの数 (P12-14)

- ・ 全世帯における、子どもの数の平均は 1 世帯あたり 2.87 人であった。
また、子どもの数は、1 人の割合が 18%、2 人が 28%、3 人以上が 54%となっている。
- ・ ふたり親世帯における、子どもの数の平均は 1 世帯あたり 3.84 人であった。
また、子どもの数は、1 人の割合が 10%、2 人が 10%、3 人以上が 80%となっている。
- ・ 母子世帯における、子どもの数の平均は一世帯あたり 2.29 人であった。
また、子どもの数は、1 人の割合が 24%、2 人が 38%、3 人以上が 38%となっている。

補足：平成 27 年の国勢調査によると、母子世帯の子どもの数は、1 人が 53.8%、2 人が 35.6%、3 人以上が 10.6%となっている。また、平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査では、母子世帯における子どもの数の平均は 1.52 人となっている。



5. 雇用状況 (P15-17)

- ・ 全世帯における父親の正規雇用（フルタイム雇用）は 65%、非正規雇用（パートタイム雇用）は 15%となっている。
- ・ 全世帯における母親の正規雇用（フルタイム雇用）は 17%、非正規雇用（パートタイム雇用）は 53%となっている。
- ・ 母子世帯における母親の正規雇用（フルタイム雇用）は 17%、非正規雇用（パートタイム雇用）は 65%となっている。

補足：平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査では、母子世帯における母親の「正規職員・従業員」が 44.2%、「パート・アルバイト等」が 43.8%となっている。

6. 仕事に関して経験したこと (P18)

- ・ 最も多かったのは、「子どもの休園・休校により、仕事を休んだ」で 57%、次いで「会社都合で仕事を休んだ」が 39%となっている。
- ・ 「テレワークに移行した」は 14%となっている。

7. 生活に関して経験したこと (P19)

- ・ 最も多かったのは、「子どもがストレスを抱えていると感じた」で 80%、次いで「子どもの遊び場がなかった」が 78%となっている。
- ・ 「その他」の記述回答には、「子どもの笑顔が減った」などの回答があった。

8. 今年 4 月の世帯全体の月収（手取り額）(P20-22)

- ・ 月収の手取り額が 15 万円未満の世帯は、ふたり親世帯で 26%、ひとり親世帯で 83%となっている。
- ・ ふたり親世帯では、月収の手取り額が 20 万円未満の世帯が 52%と過半数であった。
- ・ ひとり親世帯では、月収の手取り額が 10 万円未満の世帯が 57%と過半数であった。

9. 新型コロナウイルス問題が起きる前と今年 4 月の月収比較 (P23-24)

- ・ 新型コロナウイルス問題が起きる前と比べて、今年 4 月の世帯全体の月収の月収が減少した世帯は 78%で、4 万円以上減少した世帯が 47%となっている。



10. 現在困っていること (P25)

- ・ 経済的に困っているのが 76%、精神的に困っているのが 30%、預け先に困っているのが 12%であった。

11. 食料支援を受けたことでの家庭の変化 (P26)

- ・ P26 参照



IV. 考察

◆ 調査対象世帯（食料支援の申請をした世帯）はひとり親が多く、多子世帯の割合が高い。

- ・ 世帯構成（P7）では、ひとり親世帯が 65%と全体の約 3 分の 2 を占めています。また、ひとり親世帯 35 世帯のうち 34 世帯は母子世帯でした。
- ・ 平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査における、母子世帯の子どもの数の平均は 1.52 人となっています。一方、本調査における母子世帯の子どもの数（P14）の平均は 2.29 人で、全国調査の 1.5 倍となっています。
- ・ 平成 27 年国勢調査では、母子世帯のうち、多子世帯（子どもが 3 人以上いる世帯）が占める割合は 10.6%となっています。一方、本調査では母子世帯のうち、多子世帯が占める割合は 38%であり、国勢調査との比較においても、子どもの数が多いことが分かりました。子どもの数が多い世帯ほど、養育に掛かる費用が多くなるため、生活に困窮しやすいと考えられます。

◆ 3 世代が同居する世帯でも生活に困窮

- ・ 同居する世代（P10）については、三世代が同居する世帯の割合が、ふたり親世帯で 37%、ひとり親世帯で 31%でした。三世代同居は現役世代にとっては、家賃、食費、光熱費などの経済的負担が減ると一般的には考えられていますが、それは祖父母世代が安定した生活を送っていることが前提となります。そのため、三世代が同居する世帯においても、祖父母に十分な収入がない場合や、祖父母の看病や介護のために現役世代が働けないなどの事情を抱えている世帯では生活に困窮しやすいと考えられます。

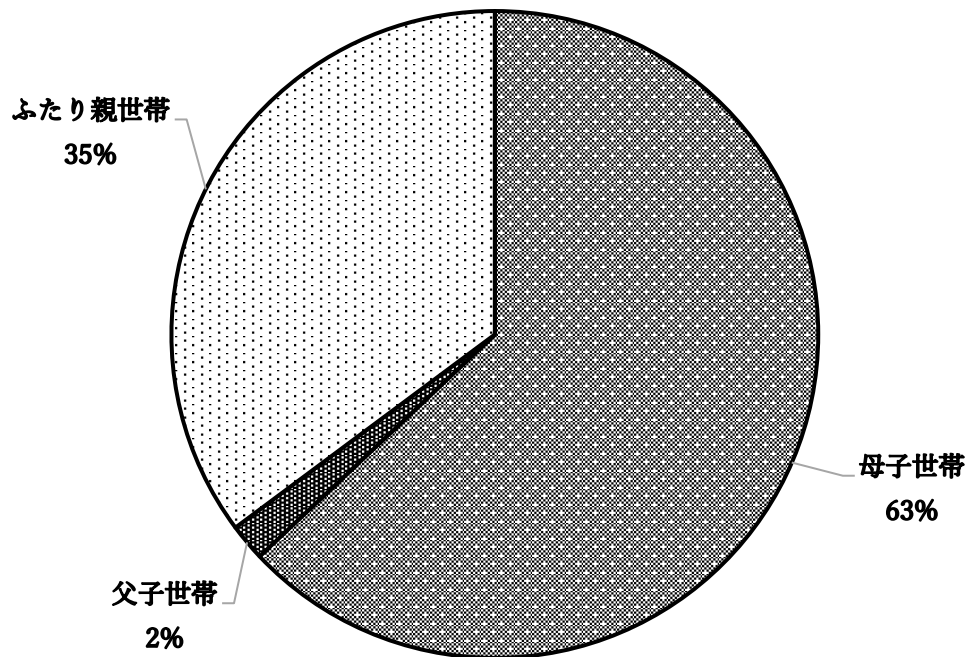
◆ コロナ禍により、仕事や生活に影響を受け収入が減り生活に困窮

- ・ 今年 4 月の世帯全体の手取り額（P20）が 15 万円未満の世帯は 63%でした。ひとり親世帯の月収の手取り額では、10 万円未満が 57%、15 万円未満まで含めると 83%となっています。
- ・ 「収入が減少した」（P23）と回答した世帯は 78%でした。また、「収入が減少した」と回答した世帯うち、4 万円以上減少した世帯は 47%でした。
- ・ テレワークに移行したと答えた回答者はわずか 14%でした。本調査の対象世帯はテレワークに移行できる職種に就いてる世帯が少なく、休業や勤務時間の減少により収入が減ったことも生活困窮に陥った要因のひとつであると考えられます。
- ・ 現在困っていること（P25）については、「経済的に困っている」が 76%で「精神的に困っている」は 30%となっています。食料支援を受けたことによる家庭の変化（P26）では、精神的な安心や孤立感の解消、子どもが楽しみにしているなどの回答があり、コロナ禍において生活に困窮する世帯に対して、経済面だけでなく、精神面においても食料支援の効果があつたことを改めて確認することができました。



V. 調査結果

1. 世帯構成 (n=54)

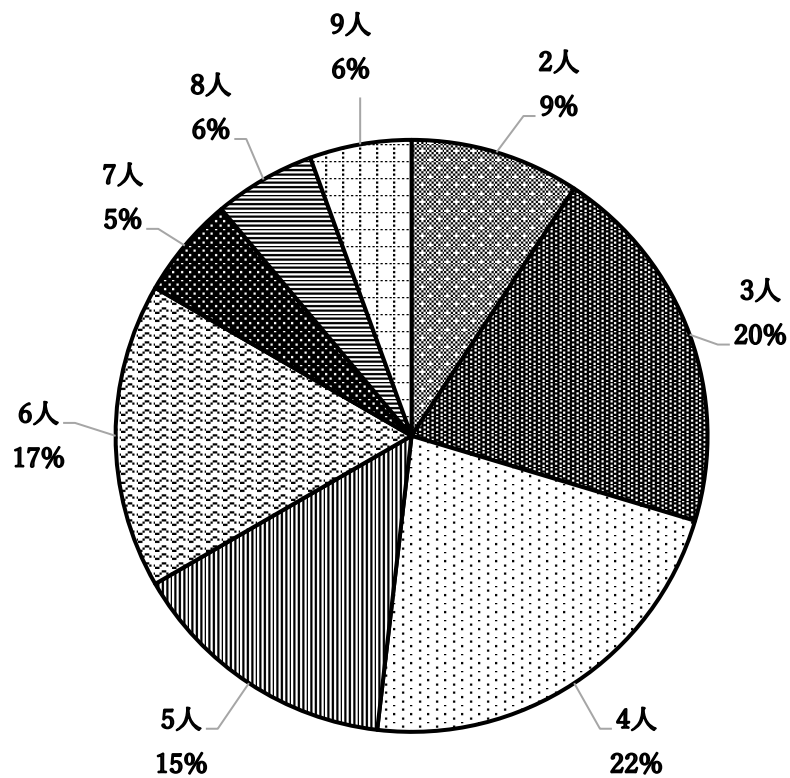


世帯構成は、ひとり親世帯が 65% (母子世帯が 63%、父子世帯が 2%) であり、ふたり親世帯は 35% であった。



2. 1世帯当たり人員

(1) 全世帯 (n = 54)



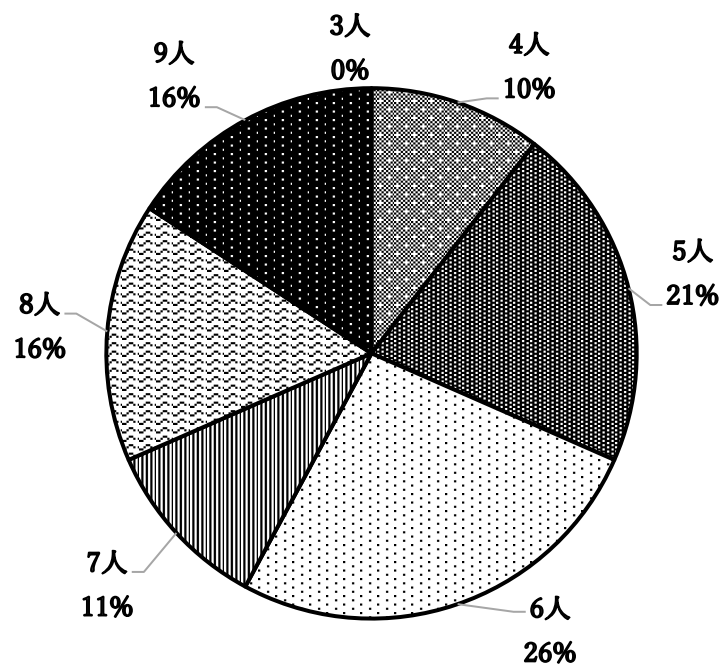
割合が多い順では、4人が22%、3人が20%、6人が17%、5人が15%であった。

1世帯当たり人員の平均は、4.76人であった。

(平成27年国勢調査によると我が国の1世帯当たり人員は2.33人)

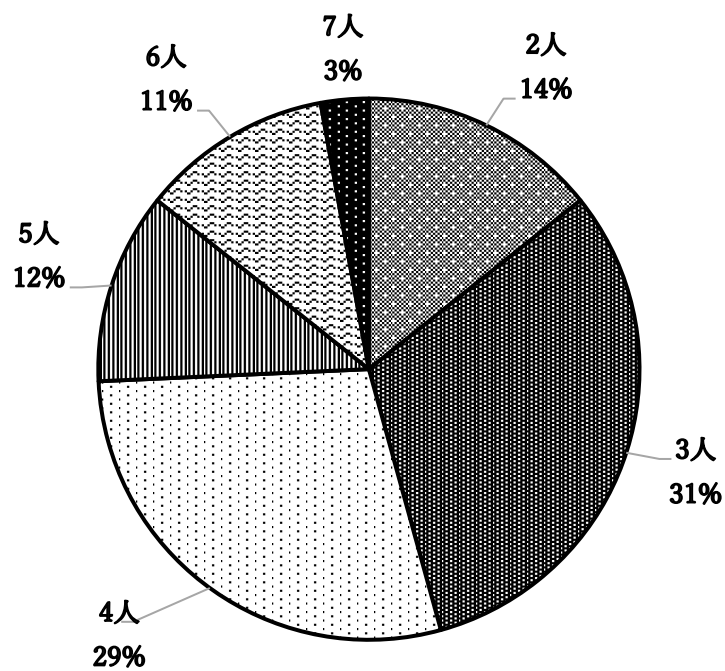


(2) ふたり親世帯 (n = 19)



1 世帯当たり人員の平均は 6.47 人であった。

(3) ひとり親世帯 (n = 35)

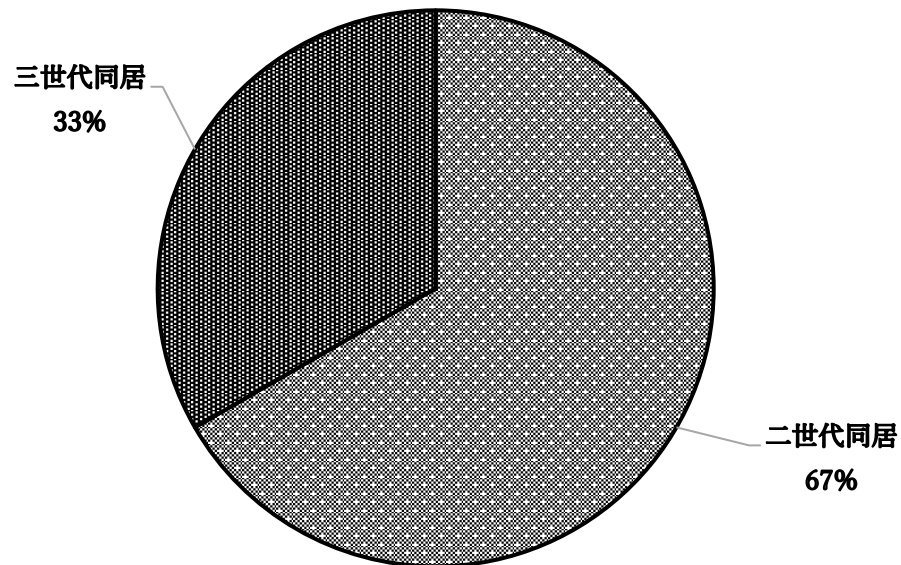


1 世帯当たり人員の平均は、3.82 人で、5 人以下が 86%であった。



3. 世代

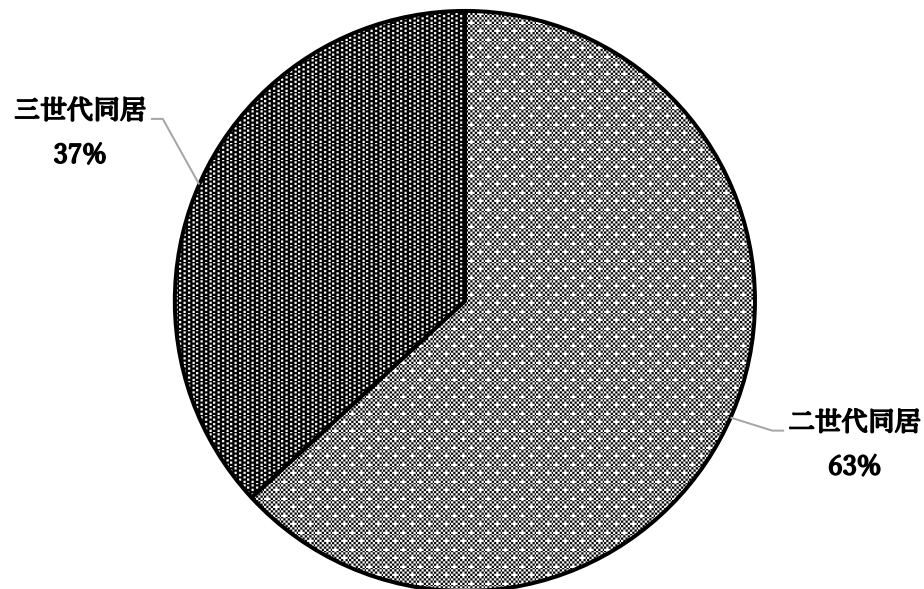
(1) 全世帯 (n = 54)



二世代の世帯が 67%、三世代の世帯が 33%であった。

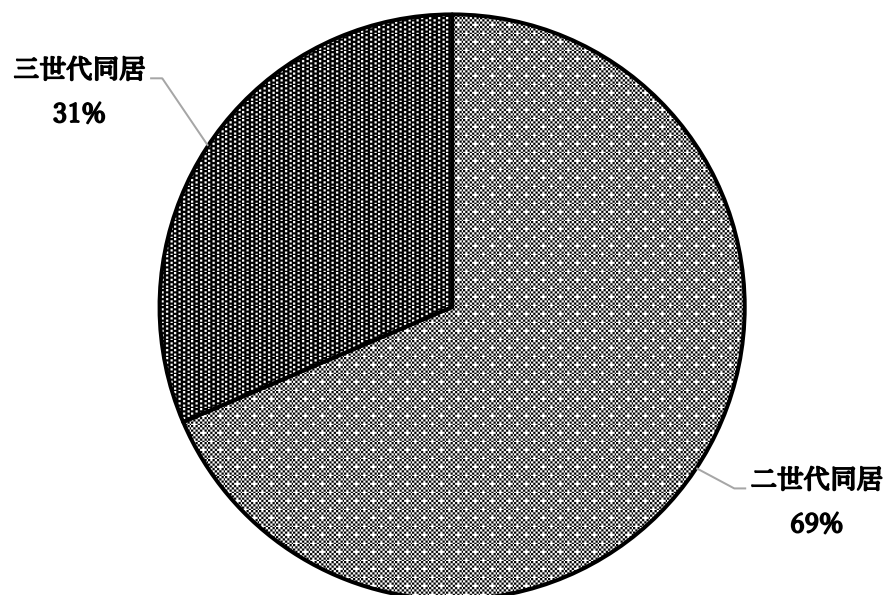


(2) ふたり親世帯 (n = 19)



二世代の世帯が 63%、三世代の世帯が 37%であった。

(3) ひとり親世帯 (n = 35)

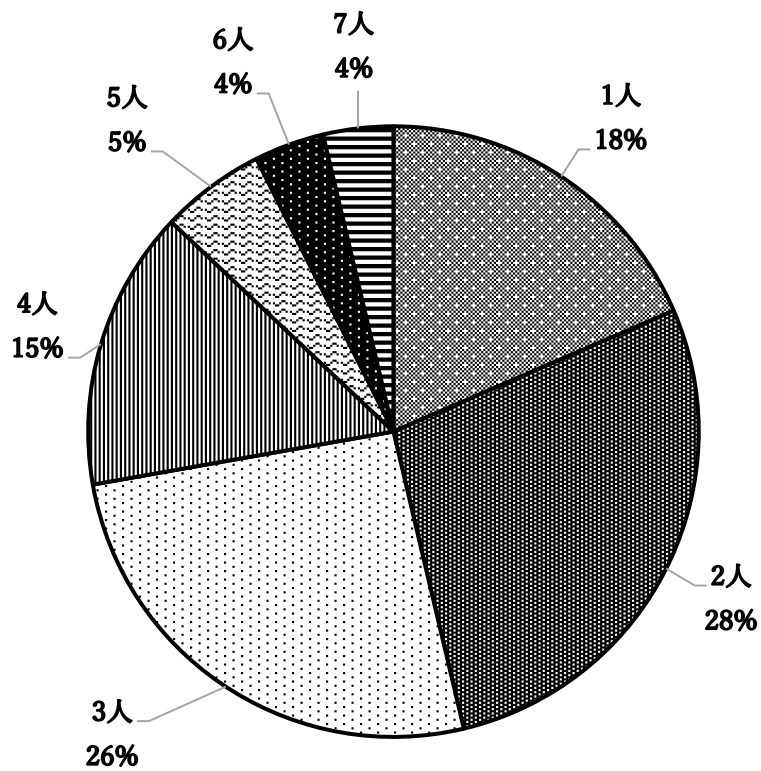


二世代の世帯が 69%、三世代の世帯が 31%であった。



4. 子どもの数

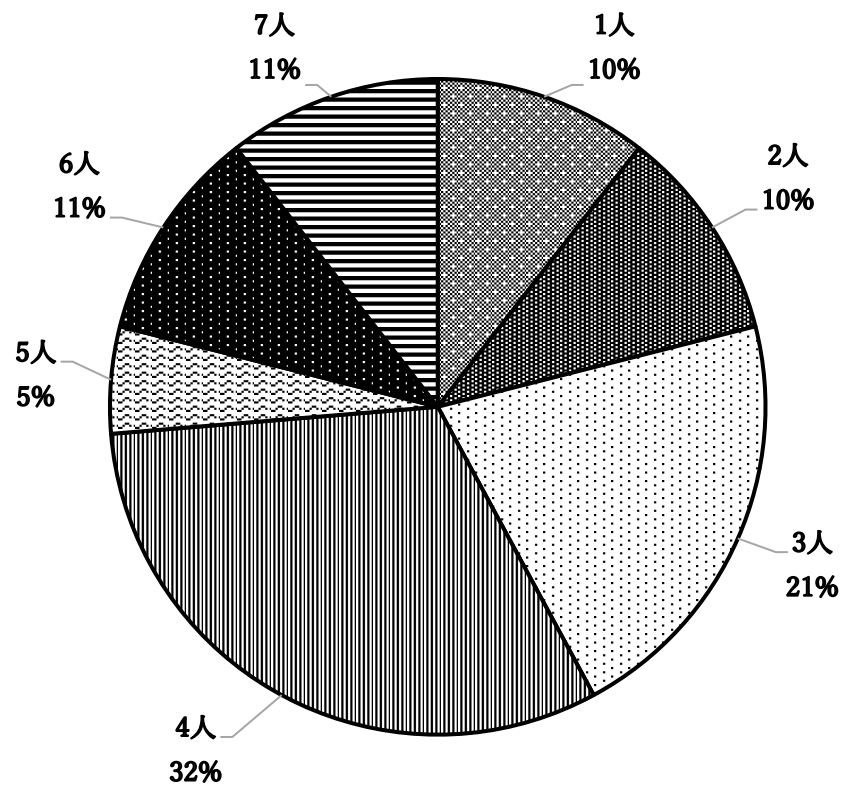
(1) 全世帯 (n = 54)



全世帯の子どもの数の平均は、一世帯あたり 2.87 人。
3人以上の子どもがいる世帯は 54%であった。



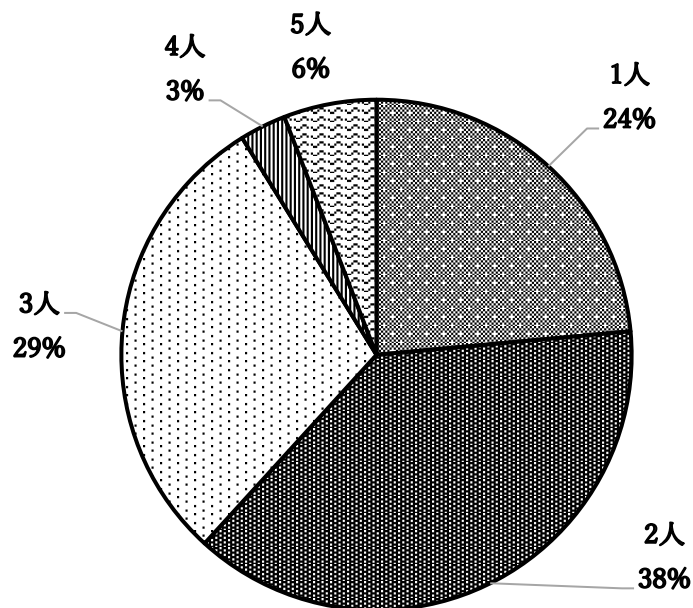
(2) ふたり親世帯 (n = 19)



ふたり親世帯の子どもの数の平均は、一世帯あたり 3.84 人。
3 人以上の子どもがいる世帯は 80%であった。



(3) 母子世帯 (n = 34) ※以下の国勢調査と比較するため母子世帯のみ抽出

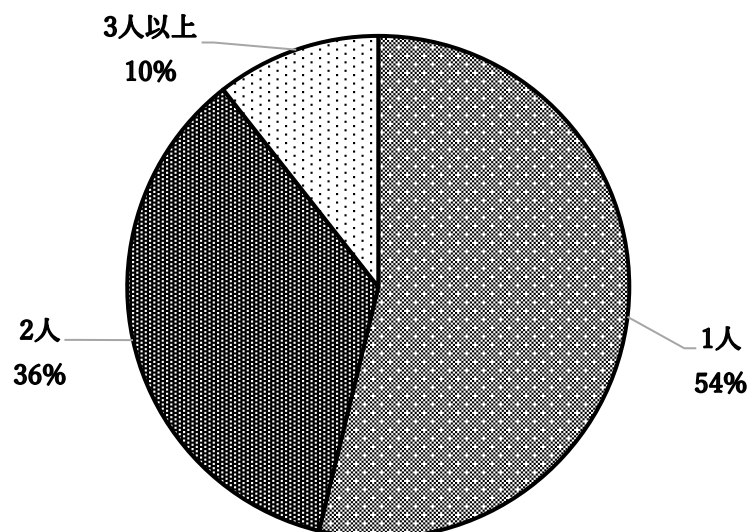


母子世帯の子どもの数の平均は一世帯あたり 2.29 人。

3人以上の子どもがいる世帯は 38%であった。

(補足) 父子世帯 (n=1) の子どもの数は 4 人であった。

【補足】平成 27 年国勢調査

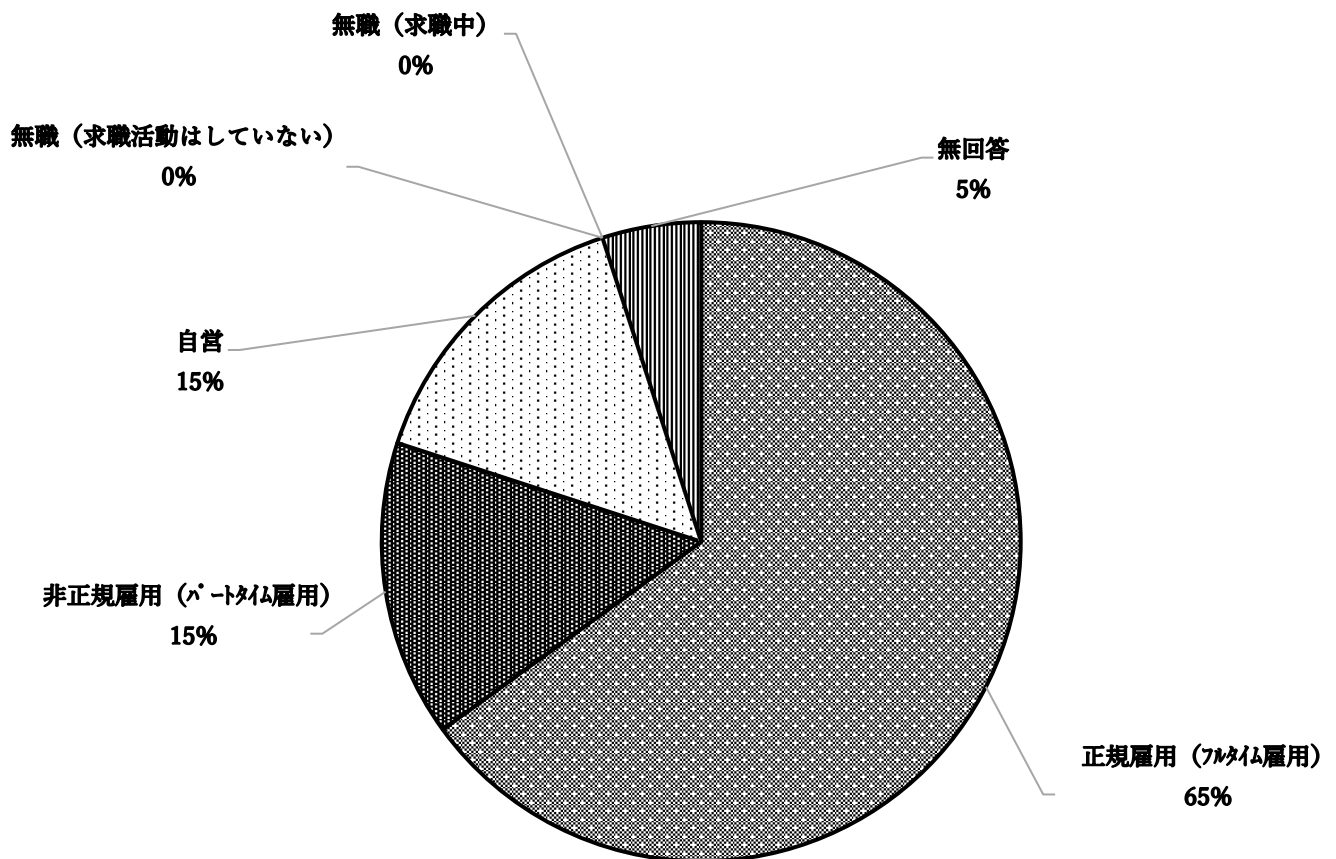


平成 27 年の国勢調査によると、母子世帯の子どもの数は、1 人が 53.8%、2 人が 35.6%、3 人以上が 10.6%であった。



5. 雇用状況

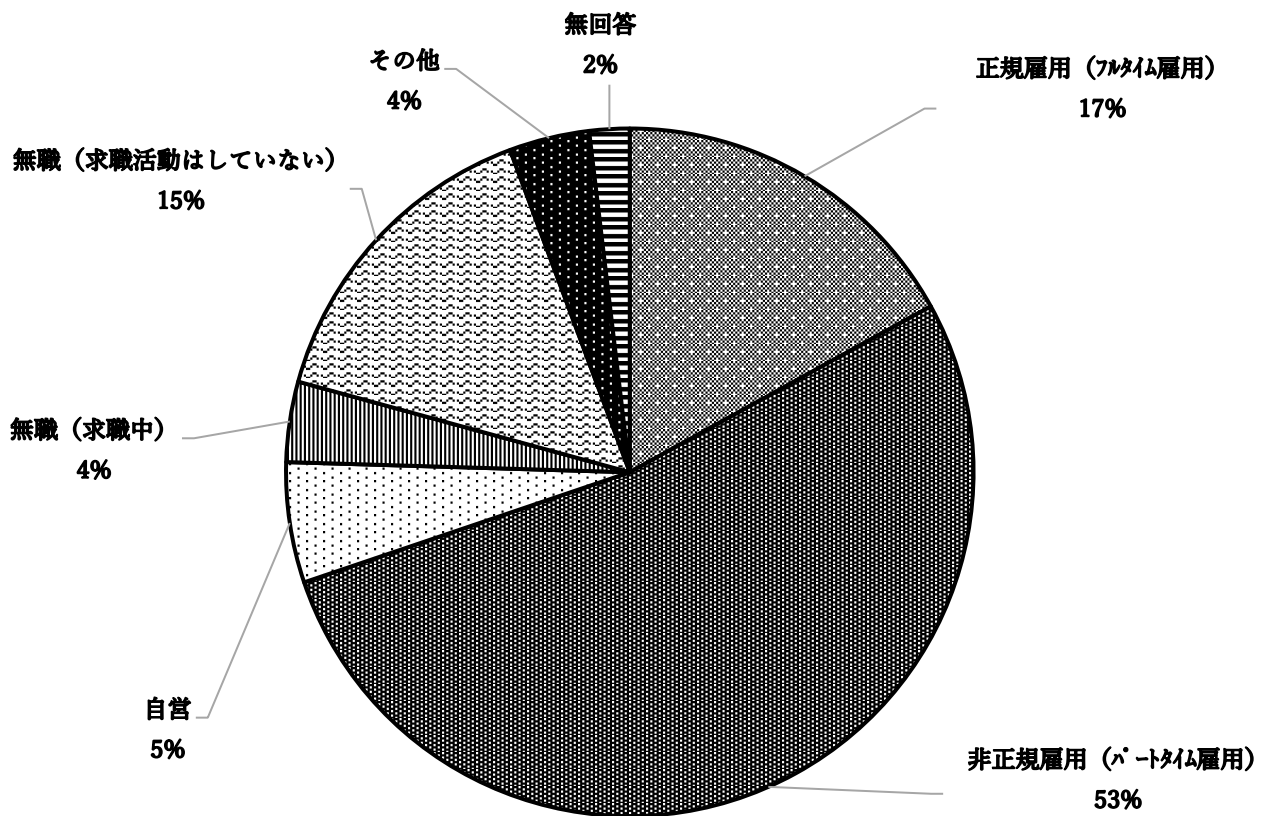
(1) 父親の雇用状況 (n = 20)



正規雇用（フルタイム雇用）は 65%、非正規雇用（パートタイム雇用）は 15%であった。



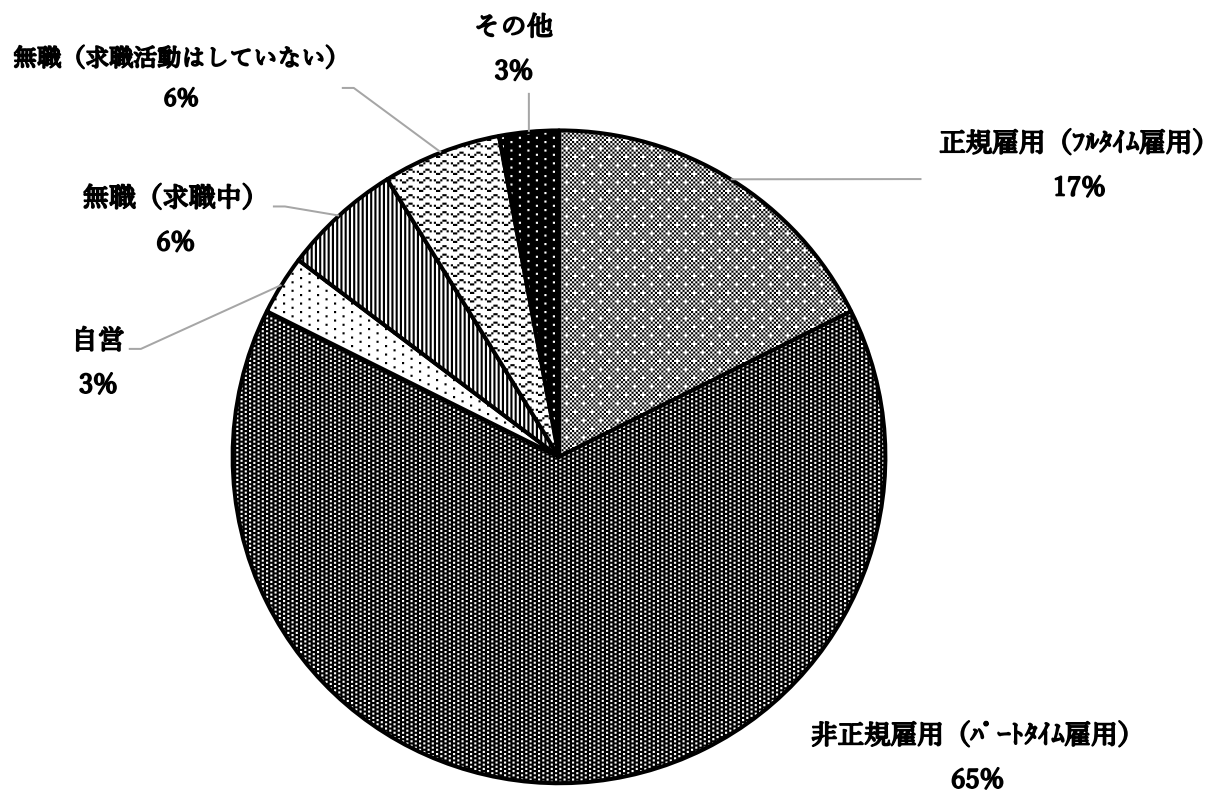
(2) 母親の雇用状況 (n = 53)



正規雇用（フルタイム雇用）は 17%、非正規雇用（パートタイム雇用）は 53%であった。



(3) 母子世帯の母親の雇用状況 (n = 34)

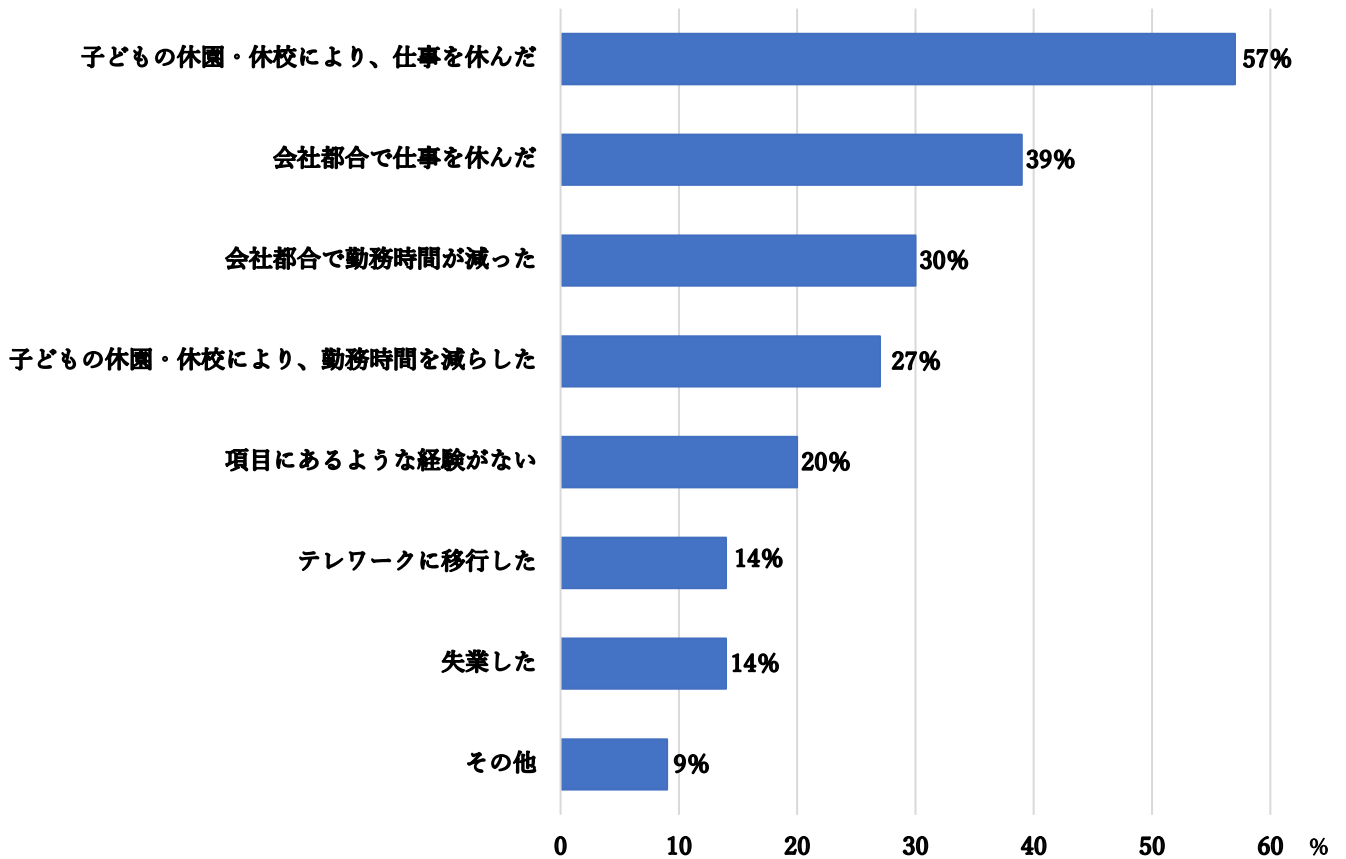


正規雇用（フルタイム雇用）は 17%、非正規雇用（パートタイム雇用）は 65%であった。



6. 仕事に関して経験したこと（n=44 複数回答）

（新型コロナウイルス感染症問題が起きてから、5月22日までの期間）



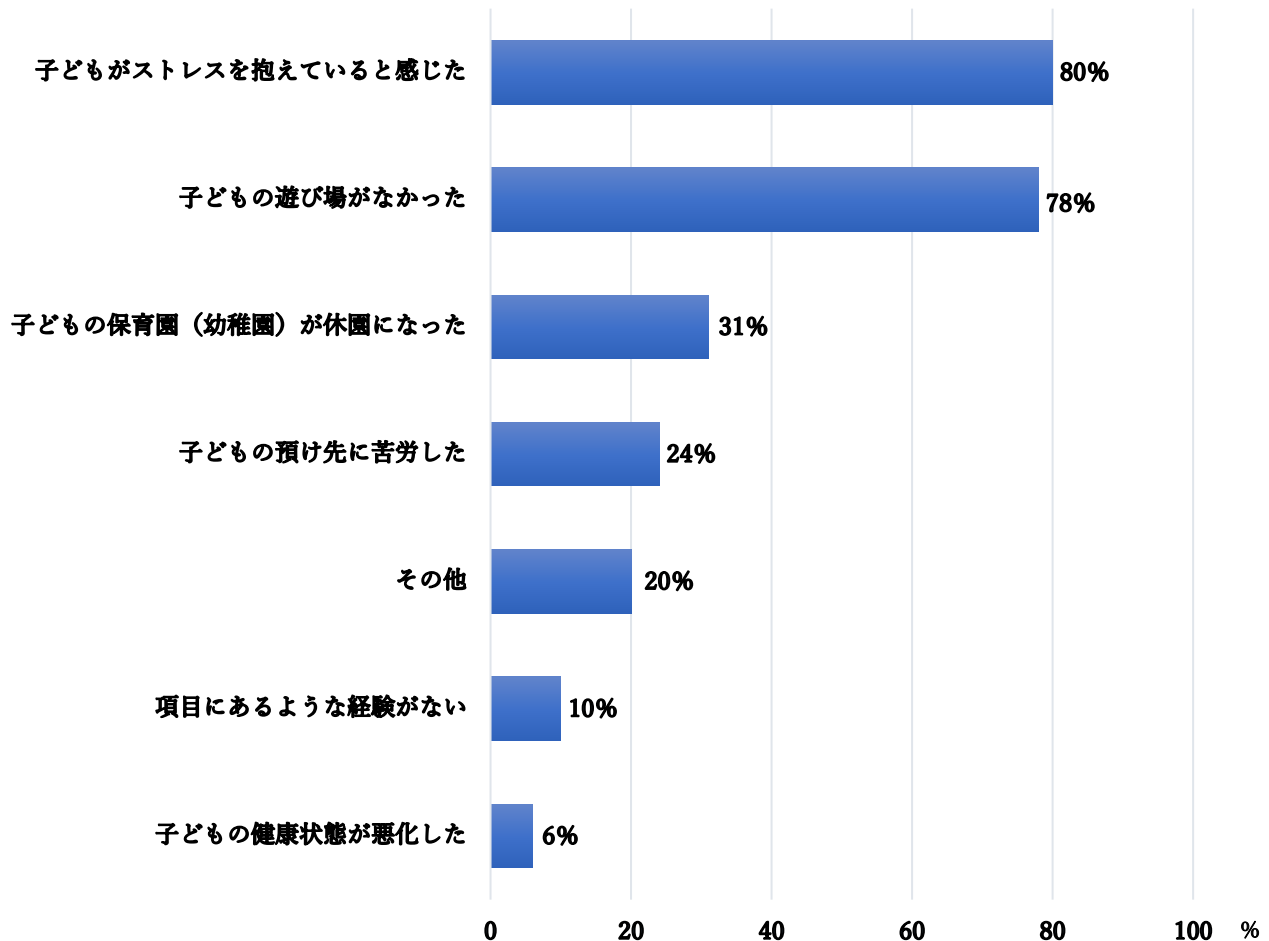
最も多かった回答は「子どもの休園・休校により、仕事を休んだ」の 57%であった。次いで「会社都合で仕事を休んだ」が 39%、「会社都合で勤務時間が減った」が 30%、「子どもの休校により、勤務時間を減らした」が 20%であった。

「テレワークに移行した」は 14%であった。



7. 生活に関して経験したこと (n=49 複数回答)

(新型コロナウイルス問題が起きてから、5月22日までの期間)



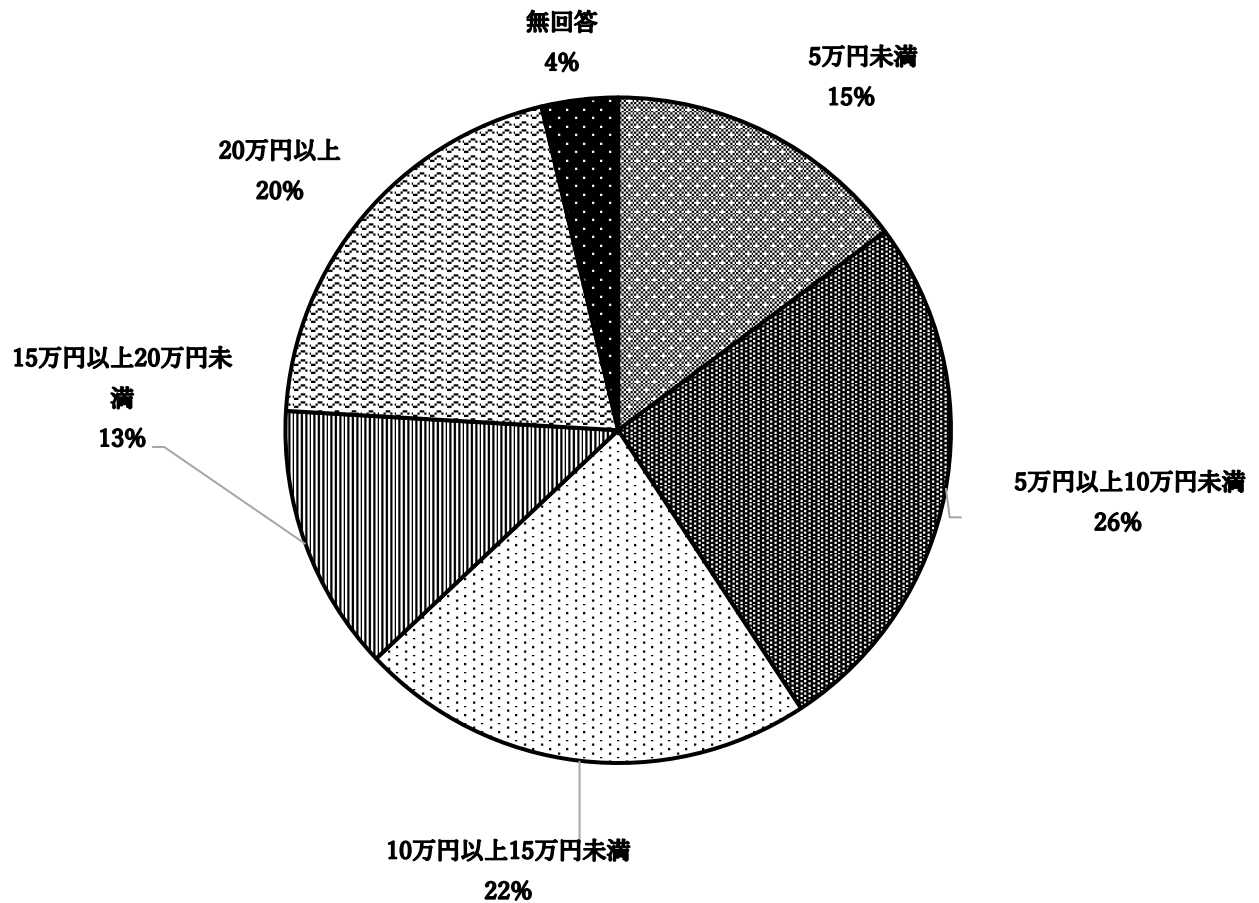
最も多かった回答は、「子どもがストレスを抱えていると感じた」の80%であった。次いで「子どもの遊び場がなかった」が78%、「子どもの保育園（幼稚園）が休園になった」が31%、「子どもの預け先に苦勞した」が24%であった。

「その他」は20%で、記述回答では、「子どもの笑顔が減った」などがの回答があった。



8. 今年4月の世帯全体の月収（手取り額）（n = 54）

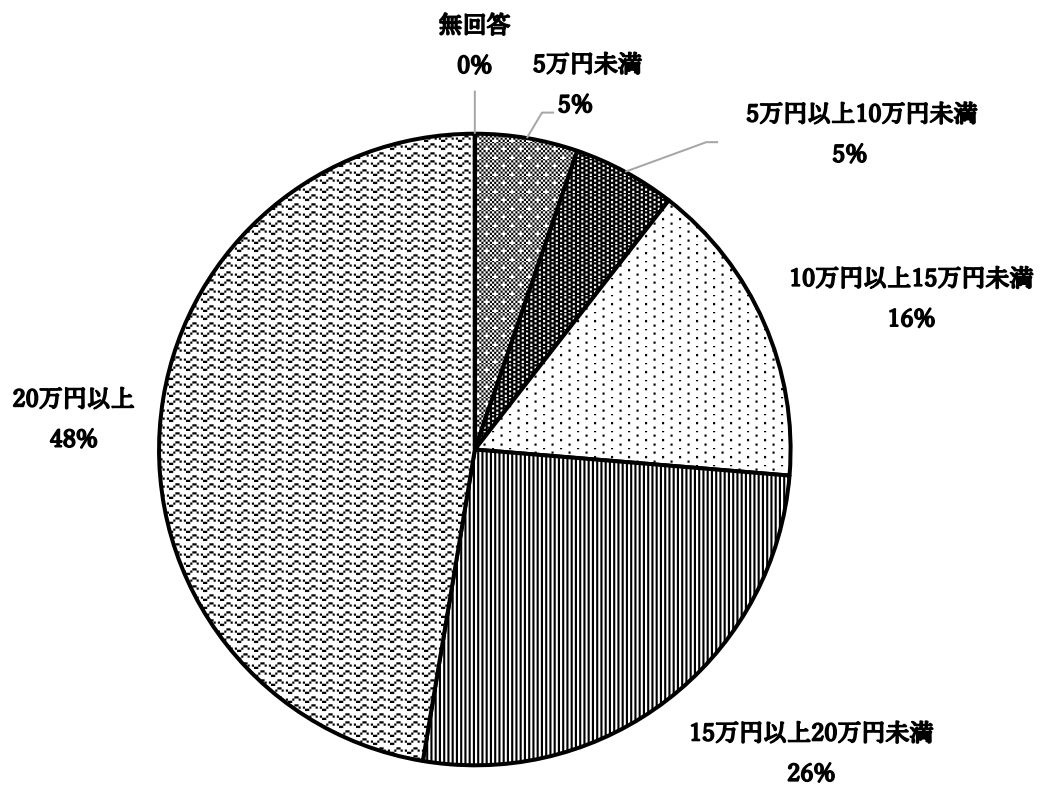
（1）全世帯



月収の手取り額が15万円未満の世帯は63%であった。



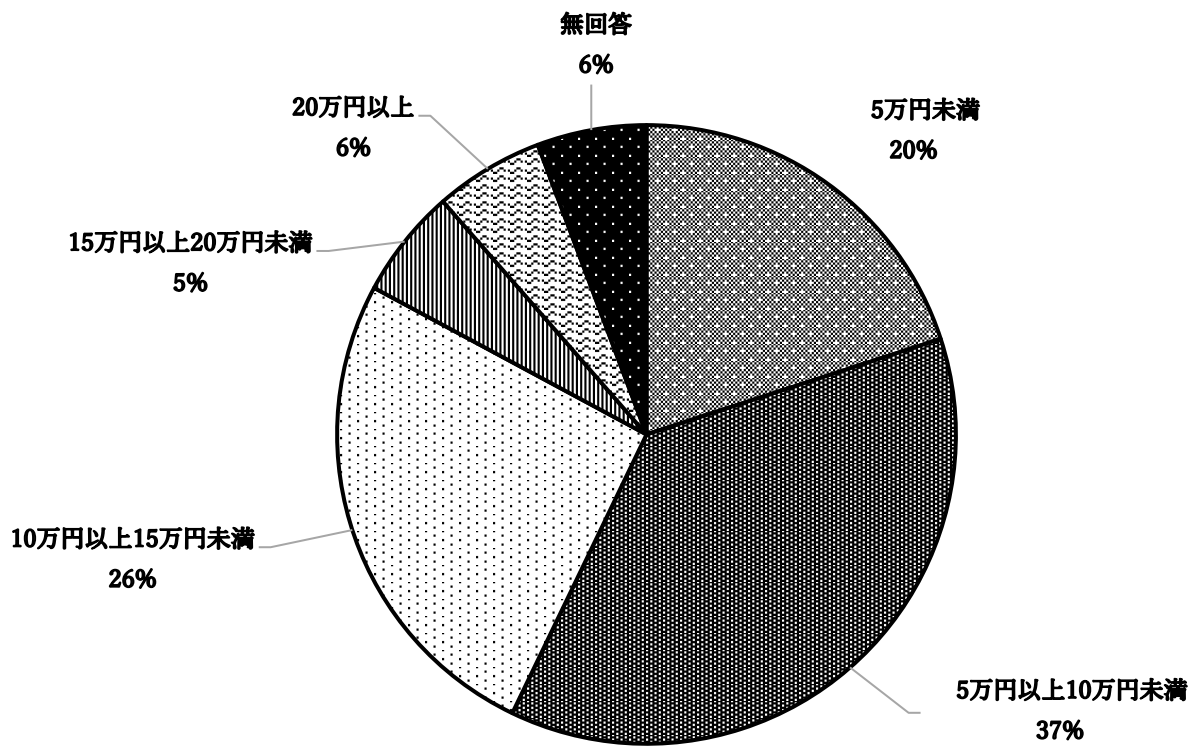
(2) ふたり親世帯 (n = 19)



月収の手取り額が 20 万円未満の世帯は 52%であった。



(3) ひとり親世帯 (n = 35)

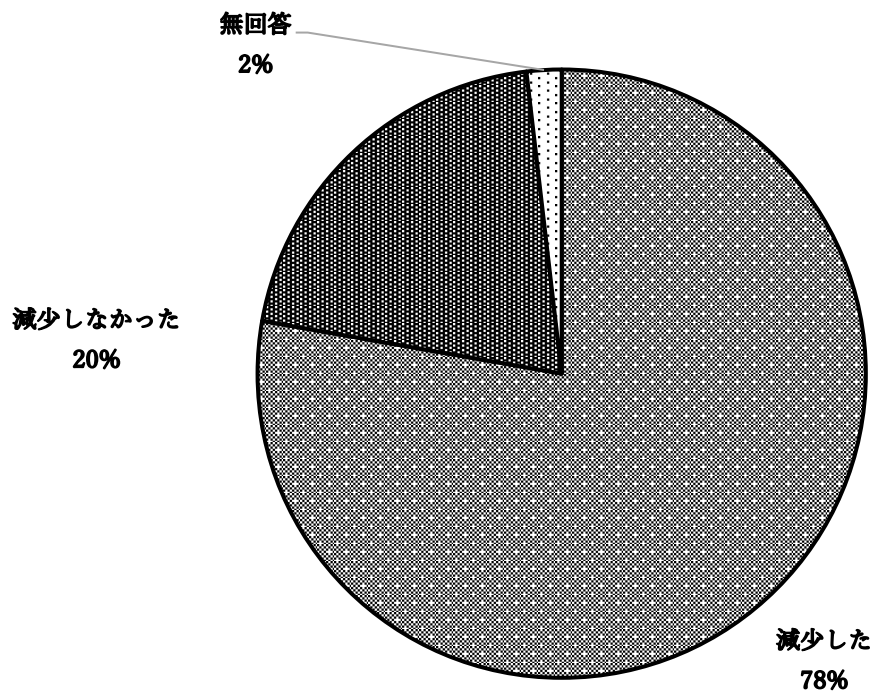


月収の手取り額が10万円未満の世帯は57%、15万円未満の世帯が83%であった。



9. 新型コロナウイルス問題が起きる前と今年4月の月収比較

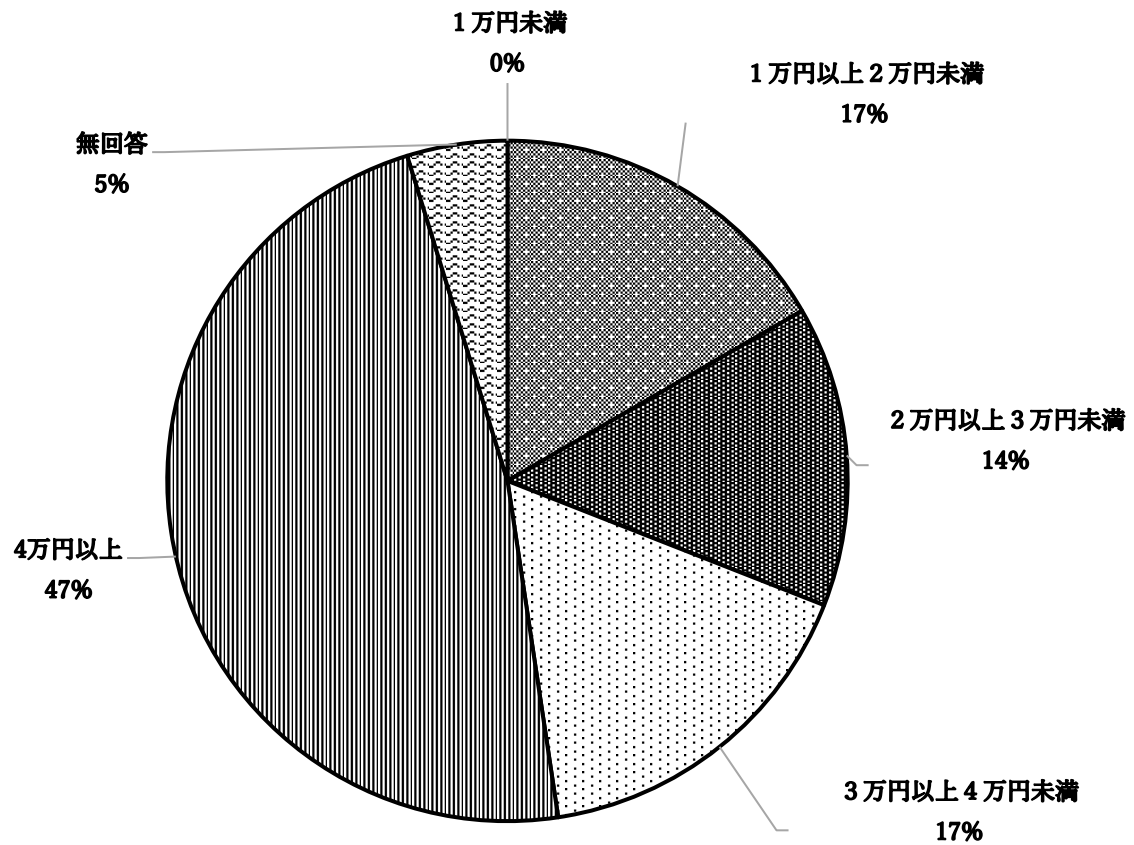
(1) 今年の4月の世帯全体の月収が減少したか？ (n = 54)



「減少した」と回答した割合が78%であった。



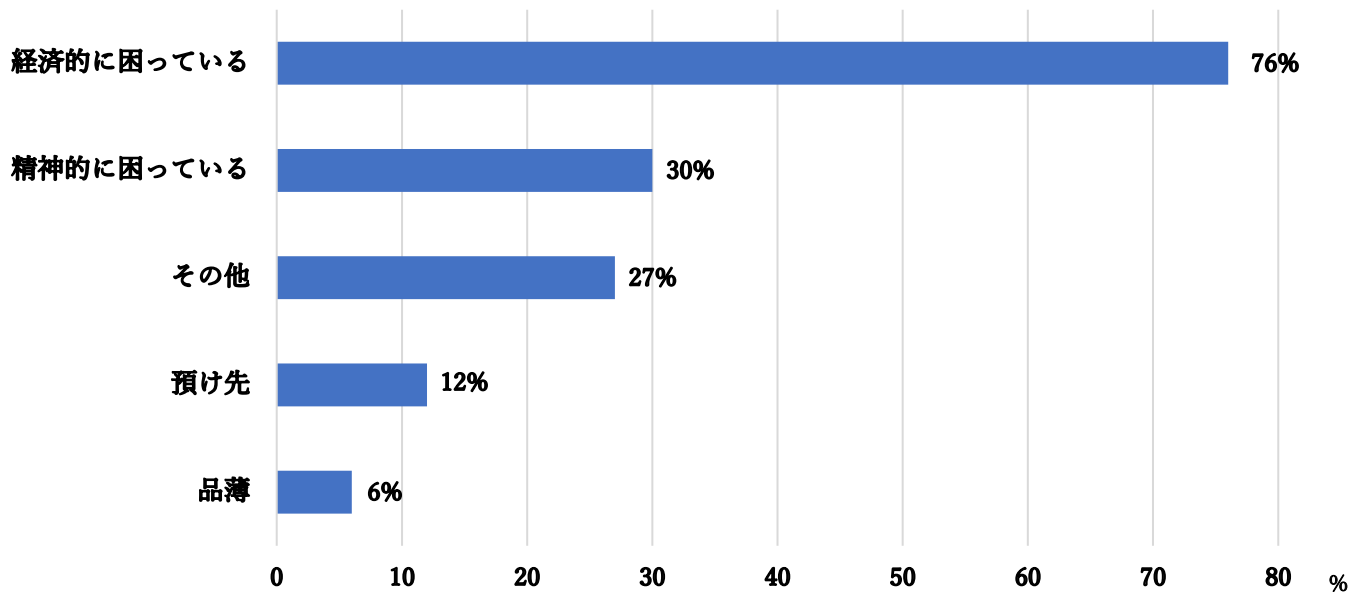
(2) 減少した額 (n = 42)



「4万円以上」減少したと回答した割合が47%であった。



10. 現在困っていること（n = 33）



「経済的に困っている」が76%、「精神的に困っている」が30%、「預け先に困っている」が12%であった。

具体的に、「経済的に困っている」こととして、仕事を休むことによる収入減、子どもの休校により光熱費などの支払増などであった。「精神的に困っている」こととして、外出できずに親子でストレスを抱えている、仕事の見通しが立たないことへの不安、切り詰めた生活続けることに精神が持たない、などがあった。「預け先に困っている」こととしては、保育園の登園自粛が理由などの記述回答があった。

「その他」としては、コロナに感染すること、コロナへの偏見、休校になるのではないかと、という精神的な不安や、仕事がない、などの経済的な問題があった。



11. 食料支援を受けたことによる家庭の変化（記述回答）

【原文のまま】

・休校、休園になり、送っていただけたとき毎回涙が出ます。私たちのことを気にしてくれている方がいる。支援してくれる方がいると「1人ではないんだよ」って言ってもらえてるように私は思えて、日々ひっそりすぎて、こどく感しかなく、フードバンクさんから送られてくる時に、本当に私を「1人じゃない」と思わせてもらってます。

・精神的に本当に救われました。今までなら、オムツ等のストックもできていたのですが、それもできずぎりぎりの状態での生活。オムツや食料を送ってくださり、生きる！って前向きにもなれました。

・初めてオムツの支援を受けたけどとても助かります。子ども達もフードバンクがくると喜んで箱を開け何が入っているか一緒に楽しみにしています。

・気持ちに不安があったので、精神面などは救われたような気がしました。

・このような形で、沢山の方の支援を感じ、心温まる思いです。私も子供も「いつか自分達の生活に余裕ができた時には困っている人を助けられるといいね。」と話しをしました。経済的にも、精神的にもとても支えになっています。

・コロナであまり人と会わないので人のぬくもりを感じ、心がほっこりしました。

・経済的にも助かりますが、皆さん大変な中頂けることが一番嬉しかったです。

・食料品をたくさん買うことができなくて、おやつのためだけにでしたが、食料支援を受けて、子供が嬉しくて喜んでます。